

広末さんも尊敬する教育のプロに
効果的声かけを聞きました!

未来を逆算して
「A校に行ったらこんな
楽しい!」とワクワクさせる
声かけを!

受験直前の大事な時期、声掛けひとつで我が子のモチベーションは変わります。そこで意識したいのが、未来から逆算した声掛けです。

本校は20年前から「28 project」と題し、28歳の自分を思い描いて、それを実現するために必要なことを未来から逆算して行動していくプロジェクトを実践しています。それも、子どもは絵の見える話をするとか具体的にイメージしやすく、モチベーションが上がります。ですから、ぜひお子様と一緒に受験後の楽しいことを想像し、夢のシミュレーションをしてみてください。「A校に行ったらどんな部活がいいかな」「B校の修学旅行楽しそうだね」というふう

に子どもをワクワクさせ、イマジネーションを揺さぶる声掛けが効果的です。

また、子供の成績は波があるものの、直前期、結果が振るわなかった際も、点数や間違えたことを責めるのではなく、できたことに目を向けて未来から逆算した声掛けを意識できるといいですね。ポイントが3つ。大きな目標は小さく分ける、「頑張る」など抽象的な言葉は具体的な行動に、そして、やり出すとできていない部分が見えて否定的になるの

で、そのときは、そこまでやったことを振り返って、「この調子でいけば大丈夫」と肯定的に直前期は特に現状にばかり目が向いてしまい、未来に目を向けられていないことが多いので、意識的に子どもの想いに寄り添い耳を傾けて。子供へのアンケートによれば、やる気での親の声かけは「褒める」、やる気を挫く声かけが「命令、禁止、比較」です。命令禁止の声かけ

をしていいのは、〇つのつく年齢までといます。10歳からいからは、自分で決めることで成長します。

子ども自身の未来に関わる中学受験は、自己決定のいい機会です。これからの長い人生、中受はあくまで通過点ですが、そのプロセスには、必ず意味があります。あと一カ月、親子でやってよかったと思える受験体験にしてください。

品川女子学院理事長
漆紫穂子先生

同校を都内屈指の人気女子校に押し上げた手腕は教育界のみならずビジネス界からも注目の。広末さんの連載で披露された品川女子学院・高校在学時の心温まるエピソードや言葉の数々が共感を呼ぶ。「女の子が幸せになる子育て」など著書多数。

漆先生の教え子
広末さんの
子育て連載は
人気大!

広末さんが引用した
恩師の言葉は
漆先生のものでした!



1月の「前受け」がスタンダードに

東京・神奈川は2月1日から入試が始まりますが、それよりも一足早く埼玉は1月10日、千葉が1月20日に解禁されるため、本番前の練習として埼玉・千葉の学校を受験する「前受け」がお守り、お試し受験として首都圏の中学受験の定番になっています。

中学受験準備の低年齢化

一般的に、中学受験準備として小学生が塾へ通い始めるタイミングは小3の2月。しかし、都心の一部大手進学塾では小3の2月を迎える前に定員いっぱいになってしまい、新規入塾を受け付けていないケースがあるため、確実に席を確保すべく低学年のうちに入塾させる人が増えています。

高大連携の増加

高校と大学が協力・交流し合い、教育の充実を図る「高大連携」が近年で急増。高大連携ではその大学への指定校推薦も必然的に行われるため、進学実績を確保したい高校側にとっても好都合。エスカレーター式の付属校以外にも、推薦入学を念頭に入れた中学校選びが新たな視点として注目されています。

複数回受験の優遇措置

複数回受験がある学校は2回目以降の受験時に得点加算や優遇措置があるので、チェックしておくとう要素となります。

午後入試が定着

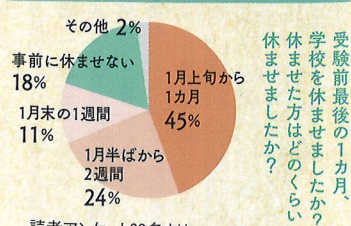
受験科目を1科or2科に限定した午後入試が定着し、午後入試の受験率がこの5年間で約1.5倍に増加。一方で、保護者には午前入試からの移動時間や手段、昼食のタイミング等のシミュレーションが必須となっています。

2023年
中学受験の
新常識

英語入試や自己アピール……、
入試形式の多様化

首都圏の中学入試では多様化が進み、2022年には新タイプ入試（従来の2科・4科型以外）の導入が48%、150校にも及びました。種類としては、適性検査型入試、英語入試、自己アピール型入試などさまざまなタイプがあります。中でも、英語入試は2014年から2021年にかけての7年間に、一般入試で（帰国生入試以外）「英語（選択）入試」を実施した私立・国立中学校は、15校→33校→64校→95校→112校→125校→141校→143校（うち私立中学は142校）と年々増加しています。

1月に入ると、2週間~1カ月
小学校を欠席するのが新常識に



読者アンケート80名より
受験をしない子と一緒に遊んでしまったり、インフルエンザや風邪をひかっような学校を休ませる家庭が続々。コロナ禍になりそれが加速しました。